

1. 概要

- 平成10年8月末洪水及び9月台風5号洪水による甚大な被害が発生した「平成10年災害」から20年が経過しました。
- 「平成10年災害」を忘れてはならない教訓として次世代に語り継ぎ、大規模氾濫時の避難を含めた今後の対応について考えるきっかけづくりを目的として、平成31年1月25日に**阿武隈川上流地区(鏡石町・泉崎村・中島村・矢吹町・玉川村)の座談会を開催**しました。
- これまでに伊達地区で開催しており、今回が**2地区目の開催**となります。次回は、**2月14日に郡山・須賀川・本宮地区で開催**します。次年度は、白河地区及び福島・二本松地区の2地区で開催する予定です。

2. 開催概要／実施状況

- 日 時：平成31年1月25日(金) 14:00～16:00
- 場 所：鏡石町図書館 2階 視聴覚ホール
- 出席者：鏡石町長、泉崎村長、中島村長、矢吹町長、玉川村長、福島県、福島河川国道事務所長 ほか 計14名
- 参加者：約30名

議事内容

- (1)平成10年災害の振り返り
- (2)平成10年災害後の取組み
- (3)これからの阿武隈川を考える

※別途、議事録を公表する予定です。

3. 主なご意見・コメント等

【遠藤栄作 鏡石町長】

・堤防のかさ上げと越水しても決壊しない対策が必要。一方で、極端な雨も降るような状況で、**堤防を上げれば上げるほど、決壊や越水の際の危険性が増す**ことは理解しておかなければならない。

【久保木正大 泉崎村長】

・堤防を舗装してもらって、ウォーキングなどで使うことができれば、**普段から川を見ていると、防災面でも役に立つ。**

【加藤幸一 中島村長】

・農業利用をはじめ、**阿武隈川のお陰で今の中島村がある。**朝や夕方に魚が跳ねていたかつての自然を取り戻したい。

【野崎吉郎 矢吹町長】

・平成23年にも大きな洪水があり、それを踏まえた対策を地域に入って議論すべき。上流地区の人たちが下流も含め、**阿武隈川の地形をしっかりと把握することも大切。**

【石森春男 玉川村長】

・川との共存共栄という形で、**乙字ヶ滝を中心としたかわまちづくりに国・県と一体となって取り組んでいきたい。**

【その他】

- ・平成10年洪水の時に、大きい杉や車がコロコロと上流から流れてくるのを初めて見て驚いた。
- ・現実にいつ大雨が降るか分からない状況で、**国・県・町村、そして地域が一体となって対策をやっていくことが大切。**
- ・観光の拠点としたり、消防訓練の場所として活用したり、**阿武隈川には様々な活用方法がある。**



座談会の様子



鏡石町 遠藤町長



泉崎村 久保木村長



中島村 加藤村長



矢吹町 野崎町長



玉川村 石森村長



福島県 佐藤 福島県 県中建設事務所長



福島県 鈴木 福島県 県南建設事務所長



鏡石町 吉田 成田環境保全会会長



泉崎村 小林 消防団長



中島村 小針 消防団副団長



矢吹町 藤井 消防団長



矢吹町 堀井 三城目地区総区長



玉川村 園谷 消防団長



小浪 福島河川国道事務所長